

**平成 27 年度第 2 回大磯町総合計画審議会
兼 第 1 回大磯町まち・ひと・しごと創生住民会議結果概要**

- 日時 平成 27 年 10 月 16 日（金）午後 3 時 00 分から午後 5 時 30 分
- 場所 保健センター 1 階保健指導室
- 出席者（会長）成田委員（学識経験者）
（委員等）青山委員（教育委員会教育長職務代理）戸塚委員（農業委員会会長）
岩田委員（区長連絡協議会副会長）、重田委員（商工会会長）
井上委員（観光協会会長）、加藤委員（漁業協同組合組合長）、
沼野委員（公募町民）、柏原氏（中南信用金庫）
- 事務局 参事（地域総合戦略担当）、政策課長、政策課担当職員

- 議題（1）大磯町第四次総合計画後期基本計画素案について
（2）大磯町人口ビジョン・総合戦略素案について

○会議記録

1. あいさつ

会長より次のとおりあいさつ

第 1 回総合計画審議会では、後期基本計画と総合戦略の関係性や策定体制について、また、後期基本計画の策定に向けて委員の皆様から意見をいただいた。本日は前回お知らせしたとおり、総合計画審議会とまち・ひと・しごと創生住民会議を兼ねて開催する。総合計画と総合戦略は、人口減少・少子高齢化の課題に対し、町が目指す交流人口の増加、定住人口の安定化という点で共通目標となっており、2つの計画を連動させながら議事を進行する。

2. 議事

（1）大磯町第四次総合計画後期基本計画素案について

資料に基づき事務局より総合計画と総合戦略の関係性及び総合計画の 4 つの重点プロジェクトについて説明。委員からの意見提案及び質疑応答については、以下のとおり。

□重点プロジェクト（花）について

◎プロジェクト達成の指標として 100 万人としているが、湘南マラソンや大磯市などは現状値に含まれるか。含まれていないならば、100 万人は達成できてしまう。目

標の立て方を見直すべきでは。(委員等)

- ・26年の現状値に湘南国際マラソンや大磯市は含まれている。重点プロジェクトの事業と既存の実施事業をPRして観光客を増やしていきたい。(事務局)

◎人を増やすだけでなく、経済的な利益が町にもたらされないといけない。平塚市や二宮町と比較して、大磯町は商店が少ない。自然が残って良い部分はあるが、経済活性化策を何か考えなければいけない。(委員等)

◎現状値の入込観光客数で日帰りと宿泊客はどの位か。また、1人あたりの町内消費額はどの位か。その数字が分かると15万人位増えたことで町にどの程度経済的な消費があったかが分かる。(委員等)

- ・平成24年では94.2万人の観光客、消費額は12億。(事務局)

◎海水浴場の開設期間の天候により年度で観光客数のバラつきは生じてしまう。15万人位は誤差の範囲で見ている状況と聞いている。(委員等)

◎政策的に目標値は100万人でなくもう少し上を目指す考えはないか。(委員等)

◎圏央道開通後、茅ヶ崎市などは海水浴客が増加している。海水浴場発祥の地であるが、新聞等で大磯町が取り上げられていないことは残念。(委員等)

- ・海水浴場は天候等で客数に誤差が生じることは認識している。近年の観光客数の平均は85万人位。15万人程度の観光客数の増加により100万人を目指すという指標は妥当と考える。(事務局)

- ・回遊性を高め、消費してもらうことが必要。商店街はないが、魅力ある商店が町内に出始めており、今後、空き家と店舗をマッチングさせて消費を増やす仕組みを作らないといけない。大規模な店舗は現状難しいが、雇用を増やす基礎づくりとしての5年間の施策と考えている。(事務局)

◎花プロジェクトだけでなく、風プロジェクトとも連携させる必要がある。(会長)

- ・重点プロジェクトは、町でこれまで取り組んでいなかったことに取り組まなければならない。手探りで進めていく状態。各プロジェクトを進めつつ、連携をしなければ達成出来ない。5年間で大磯町らしい施策を打つことで、5年後の次の計画のステップアップとしたい。(事務局)

□重点プロジェクト(鳥)について

◎ICT教育環境の整備に違和感を覚える。教育のためのツールの1つであり、重点事業にするのは安易な考え。今後ICT教育環境の整備が当たり前になる中で、整備をして何を育てるかを載せる必要がある。資料を見る限りは外国語教育への取り組みへの印象を受ける。体力向上、道徳教育も取り組むべき内容。いじめなどの社会問題に関係する道徳教育を進めることを計画に盛り込んでほしい。(委員等)

◎保育サービスについて現状把握を町は行っているか。(委員等)

- ・4月から新たな子育て制度がスタートしている。今後は幼稚園に通わせたいニーズが減り、保育園に入りたいニーズが増えていく傾向。保育園ニーズを満たすように現在町で取組みを進めており、将来的にも取り組む考え。(事務局)

◎事業3の中で地域特性を生かした推進とあるが、具体的には。(委員等)

- ・保育ニーズの高まりから共働きしたい人が増えている。町の実情を踏まえたうえで、充実させたい。特性という部分では少人数制の導入や、子育て支援として地域連携した子どもの育成支援を考えている。(事務局)

◎地域特性と記述しているが、地域の指導者を活用する考えはあるか。(委員等)

- ・放課後の子ども育成という大きな視点で地域特性を活用したいと考えている。文化的な人が町には多くいる。そのような人材を活用し、子育てを支援できる取組みも考えたい。地域のつながりが強い町であり、地域全体で進めていきたい。(事務局)

◎全国的に見られる事例でなく、大磯町の特性を考えなければならない。(委員等)

◎地域特性だけでは分かりづらい。中身が分かる書き方が必要。(会長)

- ・分かりづらい点は事務局で整理する。(事務局)

□重点プロジェクト(風)について

◎達成指標の裏付けとして、高齢者による増加を踏まえているが、高齢化が今後増えると必然的に昼間人口が増える。指標の数値の取り方として適切か。(会長)

- ・町内で全てのことが済めば昼間人口比率は上がる。高齢者の増加による昼間人口比率の上昇は検討したが、5年間で高齢化率が急速に進むかといえ、そのようなことはないと考え、80%という目標値とした。高齢化の影響が全くないとは言えないが、5年間で大きな影響はないと判断した。(事務局)

◎ねらいとして、「町内にヒト・モノ・カネが循環する、自立型の地域経済の仕組みづくり」とあるが、どのような産業を中心に行う考えか。過去には企業と雇用もあったが、大型の商店も無い中で、昼間に大磯町に居て、衣食住をまかなうことができていない。経済的な自立がなければ子どもは増えない。観光も含めた商業の発展を考えないといけない。(委員等)

◎交流でしごとづくりが出来るのか。新しいしごとを作っていくことが町の大きなテーマ。今の製造業は守りの産業になっており、就業構造の中心は第3次産業へと移っている。町が事業を創出しなければならない。シルバー人材センターは昔の第1次、第2次産業の延長であり、第3次産業の職種はない。しかし、働きたい高齢者は多く、雇用を増やすことが大事。地域で雇用の場を作ることを具体的に進めなければいけない。在宅勤務などの形態も増えており、そういった人を集めて、職場を作り、実現できる戦略を考えなければならない。これまでは計画だけで進捗が見えていない。前に進む施策を是非取り組んでもらいたい。(委員等)

- ◎委員の御指摘は事業1だと思うが、確かに何に取り組むかが見えていない。(会長)
 - ・高齢者の仕事の橋渡しを始めた自治体も出てきている。町もカラフルという団体を通じ、仕事の橋渡しを担ってもらいたいと考えている。結果は出ていないが、取り組みを始めている。(事務局)
- ◎地域特性を活かした産業創出とあるが、どういう事業を想定しているか。(会長)
 - ・コミュニティビジネスへの事業支援や6次産業化の開発支援、空き店舗の活用、観光型農業、漁業の推進などを考えている。(事務局)
- ◎先日、日高市から360人位の観光客が来町したことがまさに交流であり、物が売れた。交流とは観光の充実であり、行きたい気持ちが人の交流を作る。観光の充実を図り、人を集めることが重要。今の観光状況を掘り下げて進めてもらいたい。(委員等)
 - ・しごとづくりが町にとっては一番難しい部分。雇用の創出には、投下型で、企業が参入し、雇用を生むことが近道ではあるが、大磯町では馴染まないと思う。地域資源を生かしたビジネスとして6次産業化への取り組みがアピール出来ていない。町として、どのように支援するかを考えなければならない。高齢化が進む中で、高齢者に労働の担い手となってもらい、シルバー人材センターも雇用を意識してもらいながら、町としての支援策を考えなければならない。重点事業に掲げた内容で具体的な記述でない部分は、分かり易い表現に見直す。(事務局)

□重点プロジェクト（輪）について

- ◎補修してもらいたい道路も多い。予算の状況もあるだろうが、考えてもらいたい。(委員等)
- ◎目標値を7年前の数値に戻すこととした経過は。(会長)
 - ・アンケートなどにより、生活しづらい、買い物不便、通行環境が良くない部分が下がっている。町の良い所は伸ばしつつ、弱い所を補完するのが、一番の課題。前回の数値に戻すことが、まず目指すべき目標と考え88%とした。現状や目標値が必ずしも低いわけではないが、前回の調査から下がっていることを踏まえ、元に戻すことを目標値とした。(事務局)
- ◎指標として、違和感を覚える。アンケートを用いたというが、これでよいのか。自分たちで解決できるものではない。(委員等)
- ◎例えば人口移動で町外へ出ていく人を指標として見せる考えもある。(会長)
 - ・総合計画は、個別計画でそれぞれ数値目標を掲げている。重点プロジェクトでは全体を見て横断的に大きな視点で捉え、満足度調査の意向も加味した中で、目標とした。経年でアンケート調査を実施しており、今回数値として取り入れた。(事務局)
- ◎住み続けたい意向は非常に重要なポイントであるが、違う視点で数値を出すことも

できると感じている。低下している数値を戻すとのことだが、このプロジェクトで掲げた重点事業は低下したことへの対策であるのか。(会長)

- ・このプロジェクトのねらいとして、元気でいきいきと安全・安心に暮らせることが根底にある。それと、地域のつながりとしてコミュニティという視点を大事な要素と捉え事業として掲げた。(事務局)

□総合計画全体について

◎重点プロジェクトと部門別計画の関係性が曖昧で、混乱してしまう。(委員等)

- ・部門別計画は行政の仕事としてやらなければならないことを掲げている。中でも特に強く進めていく事項を重点プロジェクトとしている。両者の整合性について、担当課と調整している。今日の指摘も踏まえ、注意して見ていきたい。(事務局)

◎今日の意見を踏まえて部門別計画に反映させるということか。(会長)

- ・各個別計画に基づき施策を進めて行く。各施策を単体で見るのではなく、横断的に5年間で重点的に進めていくのが重点プロジェクト。部門別計画は各個別計画に基づき、今も位置付けられている内容を行うもの。重点プロジェクトは、個別計画の取り組みを横断的に推し進めていくもの。(事務局)

◎今の説明が大事。横断的に進めるという説明があったから分かる。混乱しないようにする必要がある。(委員等)

◎22 ページの重点プロジェクトの目標及び重点事業の記述部分を分かり易く説明すると読む人にとっては理解しやすい。(委員等)

(2) 大磯町人口ビジョン・総合戦略の素案について

資料に基づき事務局より説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答

◎総合戦略はこの4つの戦略で確定させるのか。戦略が決まっている中で戦術を決めていくのか、それとも戦略がこの4つで良いのかが分からない。(委員等)

- ・戦略は町の単費ではなく、町の重点事業を国の担保で進めて行く考え。国の交付金の動きはこれからという状況。総合計画の重点プロジェクトは基本的に変わらない。戦略は、4つの大きな目標は変わらないが国の動きも見た中で、国の交付金を受けるためのメニューも考えていく必要は出てくるかもしれない。(事務局)

◎いつ交付金の状況が分かるのか。(委員等)

- ・国としては年明けには決定すると話しているが、はっきりしていない。(事務局)
- ・総合計画は、この内容で進めることで動かない内容であるが、戦略は、国の動向が町の戦略策定時期に間に合えば対応を考えたい。変わる可能性はあるが、総合戦略がぶれるということではない。まずは、総合計画と同じ目的であることから、同じ

形で進め、間に合えば国のメニューに合わせて考えていくこともある。必要に応じて見直す考え。(事務局)

◎国の政策に左右されすぎてはいけない。(委員等)

・総合計画、総合戦略ともに大きな柱の部分はぶれないで進める。(事務局)

◎国の補助メニュー化も見据え、重点事業に適合させる中で変更していくということか。(会長)

・そのように理解していただきたい。(事務局)

◎総合計画の中で財源の裏付けが示されていないが、どうなっているか。(委員等)

・実効性のある計画にするべきとの話を受け、現在精査している。予算規模はわからないが、おそらく毎年予算が不足する推計が出てくると思われる。しかし、総合計画事業を実施できなくなってしまうため、財源をどのように確保するかを明記し、総合計画の実効性を担保していく。次回の会議には出せると思う。(事務局)

◎インフラ整備は財源として出ていないがどうなるのか。(委員等)

・公共施設は全体的に老朽化し、維持補修費が発生することで事業が出来なくなる。再編を考えた中で、財源を確保していく。町も国の指針に沿って進める。(事務局)

◎まち・ひと・しごと創生について、メディア関係の参加者として、例えばタウン紙などから意見をもらうことはどうか。(会長)

・委員より異議なしのため、タウン紙も参加する方向で今後進める。メンバーは、事務局と会長で検討する。

3. その他

・次回の審議会は10月28日(水)午後1時開催予定。意見を踏まえ、諮問を町より行う予定。10月末からはパブリックコメントを行い、12月に答申予定。(事務局)

以上